

平成28年6月2日

加西市議会議長 三宅 利弘 様

21政会

幹事長 森田 博美



## 調査研究報告書

下記のとおり行政視察研修を行いましたので、報告いたします。

### 記

1. 調査年月日 平成28年5月17日(火)～19日(木)
2. 視察先 福島県喜多方市・会津若松市・二本松市
3. 出席者 織部 徹・衣笠利則・中右憲利・長田謙一  
原田久夫・三宅利弘・森田博美・森元清蔵
4. 研修内容(詳しくは別紙)

喜多方市……5月17日(火) 13:00～14:30

●小学校農業科の取り組みについて

(視察対応者)

市議会議長 渡部孝雄

学校教育課 坂口指導主事

学校教育課 小杉指導主事

議会事務局 五十嵐係長

会津若松市……5月18日(水) 9:00～11:00

●議会改革について

(視察対応者)

市議会議長 目黒章三郎

大山議員、譲矢議員

議会事務局 尾崎次長

二本松市 ……5月19日(木) 10:00～11:30

●農業6次産業化推進事業について

(視察対応者)

市議会議長 野地久夫

農政課 佐藤課長

夢ワイン(株) 斎藤代表取締役

議会事務局 斎藤局長、安田係長

### 5. 添付資料

- ① 視察行程表
- ② 研修資料
- ③ 写真

## 喜多方市

### 視察テーマ;小学校農業科の取り組みについて

#### 1. 小学校農業科のあゆみ

H18年 教育特区の認定を受け、小学校に全国初の「喜多方市小学校農業科」を設置。H19年 3校で「農業科」の授業開始。

H21年より「総合的な学習の時間」で農業科を実施。

H23年 市内17校全ての小学校で農業科を実施。

小学校3年生から6年生まで約1600名で実施。年間35時数。

#### 2. 小学校農業科実施の意義

農業の教育的効果… ころの教育をしている。

##### ① いのちについて学ぶ

農産物の成長を実感させ、農作物が単なる食べ物ではなく「生きるもの」であることを理解させることができる。さらに、人間は「生きるもの」である食べ物によりいのちをつないでいる事に気づかせ、「いのちといのちの関わり合い」や「いのちの大切さ」について理解を深めさせる事ができる。

##### ② 共生や思いやり、環境について学ぶ

水田や畑は作物を育てる場であると同時に、多くの生き物が生まれ生活する場であることに気づかせ、人間が様々な生き物と共に生きることの大切さを理解させることができる。

また、自分以外の様々な生き物のことを考えたり思いやったりすることを通して、様々な生き物が共に生きることの大切さを学ぶことができる。

##### ③ ゆとりや持続性・耐性を育む

農作物を育てる活動を通して、ゆとりをもった取り組みや、持続性・耐性を育てることができる。

##### ④ 想像力や判断力・実践力を育む

将来を予測し計画的に世話をしたり、不慮の自然現象を予測しその対策を考え実行したりすることを通して、農業に必要な知識を習得させ、想像力や判断力、実践力を育むことができる。

#### 3. 実施方針

- ・ 種から行うこと。できるだけ手をかけて育てること。
- ・ ゴールを見据えて作付すること。
- ・ 地域との連携を重視し、地域のボランティアの支援を受けながら活動に取り組む。学校毎に農業科支援員を委嘱。H27年96人。

#### 4. 効果

- ・ 子供の表情が変わってきた。おだやかな子供になっている。
- ・ 不登校生の減少。
- ・ 作文コンクールでの子どもの成長。

# 会津若松市

## 視察テーマ;議会改革について

### 1. 議会基本条例の受け止め方

- ① 議会活動とは、顧客である市民を対象として行う新たな価値創造のための一連の諸活動
- ② 議会基本条例とは、市民にとっての新たな価値創造に向け、市民参加を基軸とした政策形成サイクルの確立と実践によって、積極的な政策形成を行い、まちづくりに貢献していく、そのためのツールである。

市政発展への貢献が最終目的、かつ最終ユーザーは市民。

議会内の仕組みやルールづくりはその手段（ツール）にすぎない。

### 2. 政策形成サイクル

#### ●主要3ツール

- ① 市民との意見交換会＝意見聴取（政策形成サイクルの起点）
- ② 広聴広報委員会＝意見整理（中分類～大分類に）→  
→問題発見（現状と実現したい姿とのギャップの把握）  
→課題設定（特に解決すべきもの、実現すべき問題をテーマとして設定）
- ③ 政策討論会＝  
問題分析(テーマについて何がどの様に問題なのか具体的に明らかにする)  
→政策立案

#### ●段階別概要

##### (1) 政策研究

###### 問題発見→課題設定→問題分析

→市民との意見交換会で市民から「意見の聴取」する。

→多様、多数の「意見を整理」し、「問題を発見」する。

→発見した問題を一般化、抽象化することで、「課題設定」を行う。

→設定した課題について、優先順位、重要性、緊急性等を考察・評価する「問題分析」を行う。

##### (2) 政策立案・政策決定・政策評価

政策研究を行った上で、政策討論会などを通して、調査研究を行い、具体的な政策（条例立案・議案修正・政策提言）として立案・決定に結び付けて行く。

### 3. 議決責任と議員間討議

#### ①議決責任

議決の主体は議会。

議決責任に関する説明の主体は議会（「議会は、……………」）

議決結果だけでなく、審査経過～最終議決結果まで説明責任がある。

#### ② 議員間討議

・議員間討議を必要性の問題として認識している

- ・ 討論の広場としての議会における本来的な必要性
- ・ 首長との関係から来る必要性

- ・論点・争点の明確化による市民世論喚起の視点における必要性
- ・議決に係る説明責任を十分に果たすための必要性
- ・説明責任を果たすための議員間討議のあり方
  - ある議案について、論点を抽出し、整理した上で、それに基づいて審査（質疑）を行う必要がある。
  - そして、委員だけで議論し、委員会全体としては、合意点を確認し、合意に至らず最後まで争点として残った点も明らかにする。
  - その上で最終的には、表決に付し、委員会としての議決結果を得る。
  - このように、論点を明確にしながらか議員間討議を行い、合意点と合意に至らなかった点とを明らかにすることができてはじめて、委員会を主語として議決結果を説明できる。
- ・議員間討議を適切に進めるための条件整備
  - 委員会開会までの各委員個々の議案調査のほか、各委員が議案ごとの論点を持ち寄り、意見交換し、「委員会としての共通論点」の抽出と一定の整理を行う。この事前準備の可否及び良否が、実際には議員間討議の可否及び良否を左右する。その意味において、ここに現実的な課題がある。
- ・常任委員会における議員間討議の進め方
  - ①事前の議案精読及び論点整理
    - ・ 議案の内示
    - ・ 議員各人の議案精読及び論点整理
    - ・ 委員会事前打合せ……各自が抽出した論点を持ち寄り、意見交換し、「委員会としての論点の抽出」を行う。また、考えが別れる点（争点）の予測についても意見交換を行う。
    - ・ 本会議の議案質疑を踏まえ、各委員による議案調査の継続
    - ・ 追加する論点を委員長へ報告
    - ・ 議案ごとの抽出論点を「委員会の抽出論点一覧表」として事務局が取りまとめる。
  - ②各常任委員会の審査
    - イ. 当局から提案説明
    - ロ. ・「委員会の抽出論点一覧表」に基づき当局へ質疑……委員全員が「関連質疑」を行う。
      - ・ 委員個人が従来の質疑を行う。
    - ハ. 説明員は退席
  - 二. 議員間討議
    - ・ 論点ごとの争点ごとに議員間討議を行うことを通じて、合意できる点、できない点を確認する。
    - ・ 合意できない点については、さらに合意できる点はないか討議する。
  - ホ. 説明員は再度入室
  - ヘ. 必要があれば、当局へ再度の質疑    ト. 討論    チ. 採決

## 二本松市

### 視察テーマ; 農業6次産業化推進事業について

#### ① ふくしま農家の夢ワイン株式会社の取り組み

- ・ブドウ栽培と果実酒造りを通じた地域農業の6次化
- ・都市・農村交流を推進するため震災の年から耕作放棄地等へブドウを植える。
- ・H23年11月東和果実酒研究会の結成
- ・原料生産に留まらず、自ら加工(醸造)する体制を整えるために、市の協力の下、H24年3月東和ワイン特区認定を受け、9月には、研究会有志により、果実酒の製造・販売を行う「ふくしま農家の夢ワイン」設立。
- ・H24年には、耕作放棄地再生利用緊急対策交付金で0.91haの耕作放棄地を解消し、醸造用ブドウを栽培。
- ・H25年3月製造免許取得。7月りんごのシードル完成、ブドウ初収穫、12月ワイン完成
- ・H26年約500本製造。年間売上高1,600万円。
- ・H27年約2,000本製造。

#### ② ブランド産品促進モデル事業

##### 6次産業化の問題点

- ① 商品開発に時間を費やした割に商品が売れない
- ② 継続して売れる商品が少ない。
- ③ 商品売れても利益がでない。

##### 自ら利益をコントロールできる商品開発の取り組み

- ・外部への情報発信等を含め販売戦略を確立する。
- ・各直売所、加工所が連携することにより手間とコストを削減する。
- ・作りたいものから売れるものへの転換。ごぼうコロッケ作り(生産者ニーズから消費者ニーズへ)

## 会派行政視察の所感

21政会幹事長 森田 博美

### ①小学校農業科の取り組みについて（福島県喜多方市）5/17（火）13:00～

小学校での農業必修はすごく立派な取り組みであり感心した。平成18年の教育特区から現在の『総合的な学習時間』に組み込み、第3学年から第6学年まで、それぞれ年間35時間の授業が展開されており、見事なまでの実践に感動した。豊かな心の育成、個に応じた教育、授業の質的改善等々の取り組み成果はあったものの根本的な解決にいたっていない現状から、農業の教育的効果に着眼して農業科を設置されている。

農業科の目的は『いのちを育む』教育であり、『種』から農作物を収穫する作業を通して、それらの苦勞する作業から、豊かな心の育成、社会性の育成、主体性の育成を図っている。言わば、教育課題解決のための方策の一つとして農業科があるとの説明には、すばらしい教育実践の成果と自信が伝わり、学ぶことが大きかった。17校すべてに配置されている無償の『農業科支援員』約100名、地域との連携は見事なまでに深まっており、農業科の取り組みから食育、そして生命の尊重・健康・環境・食物等の事柄は、各教科や道徳そして特別活動との関連でも指導されている。さらには、気象・土壌・生物等の基本的知識の習得にも成果が出ている。正に農業科故の効果と成果が見いだせていると感じた。

生き生きして目を輝かせて活動する子供達、率先して作業に取り組む子供達、地域と学校が一体となった農業科、人と関わることの喜びと農作業の体験と経験が重要であることを再認識し、農業が持つ高度な教育的効果を教えていただいた。

### ②議会改革について（福島県会津若松市議会）5/18（水）9:00～

議会改革のトップランナーとして評価がある会津若松市議会に、政策立案能力の強化となる政策検討会、市民との意見交換会や委員会活動の強化等の内容について学んだ。さすがに凄い議会の取り組みに感嘆する。積極的な政策形成を行い市政に貢献するために議会基本条例を制定し、市政発展への貢献が最終目的で、議会内の仕組みやルール化はその手段にすぎないとの説明は分かりやすい。政策形成サイクルの主要3ツールとして、意見聴取そして意見整理→問題発見→課題設定し、問題分析から政策立案の手順を、独自の政策形成サイクルの基本フレームで進めて要望にこたえている。

市民との意見交換会での意見・提言・要望等の分類イメージを図式化は理解が進むし、広報広聴委員会が担う広報活動に加えて『市民との意見交換会』を定数8名の委員会で担当している。市民と議会、広報と広聴とをつなぐ機能もこなしている。議員間討議とは、議案に対し執行部への質疑が終わり、賛否を表明する『討論』の前に行われている。その意味は論点を明らかにし、またその議案に対して議員間でどこまでの合意が可能で、『意見』を付すか否か『対話』するものとなっている。さらにそれが義務規定であり、議員間討議をしたい希望があれば成立するものとなっている。賛否表明後の『討議』を決めている我が市議会の低調さはそこにあると判断する。説明責任を尽くすための議員間討議のあり方は工夫すべきと判断した。

議会の機能強化、意見交換会の報告書、予算決算委員会の政策形成サイクルのイメージ図、議決責任と議員間討議等についての説明と資料は、大いに参考になるもので有り難い書類である。議会改革のトップランナーに何としても近づきたいとの思いを固めた視察となった。

厚かましく、目黒議長には加西市での講演依頼をした。

### ③農業6次産業化推進事業について（福島県二本松市）5/19（木）10:00～

午前中に視察事項の説明を受け、午後からは6次産業化の現地視察で長時間、また長距離の移動をお世話いただき感謝しています。元気な地域づくりとして『夢ワイン』製造を、お酒の大好きな有志により果実酒研究会を結成したのが取り組みの最初。りんごを原料としたシードル、受注による様々な果実酒を研究製造する。放射能による風評被害対策を乗り越えながら、商品開発に時間とコストが高くなり、利益が出ないなど苦勞も山積する中、勉強会を重ねてブランド商品の開発、売れ続ける商品開発に取り組み、生産量の多いゴボウのコロッケを販売、県内2位生産のキュウリの加工品も開発中、市町合併前の3つの道の駅とJA販売所で地域の特色にあった地域振興を展開されており、大いに参考になった。

ワイン製造会社の見学が可能となり現地視察が実現し、また帰路に、道の駅にもご案内をいただいた。風評被害だけでも困難が伴うが、ぶどうに地域活性化の夢をかけている農家と支援者の皆さんの頑張りに感動した。

## 【喜多方市】

## ● 小学校農業科の取り組みについて

・喜多方市の15小・中学校では、平成15年度から食農教育を教育課程に位置づけ、教育活動をおこない、熱塩加納地区では地域住民やJAの支援を受け小学校2校ながら、有機農法による水稻栽培を教育活動にとりいれてきた。背景には、市街地を除いて、児童生徒の家庭90%以上が、また市内全体では64%が何らかの形で農作物を栽培しているという状況がある。

平成18年から21年3月まで、国の構造改革特別区域として、内閣総理大臣から、小学校農業特区の認定を受け、全国初の「喜多方市小学校農業科」を設置した。

平成21年4月から新学習指導要領の「総合的な学習の時間」で実施している。教育効果としては、農業をとおして「いのち」について学ぶことができている。

## ○ 所感

・国の特区として小学校に農業科を取り入れ、生き物を育てることにより、いのちの大切さを学ぶことは、素晴らしいことであると感じた。しかし、小学校で他の教科の指導時間を減らさずに、科目を取り入れることは難しい課題がある、また、総合的な学習の時間だけでは十分な世話ができず、地域の支援者の援助も大変なものであると感じた。校長が地域と連携することも重要であり、校長の力量によるところが大きいと感じた。

## 【会津若松市】

## ● 議会改革について

・議会制度改革の基本理念「市民の負託に応えうる合議体たる議会づくりを目指して」をもとに、①公平・公正・透明な議会運営、②市民本位の政策決定、政策監視及び評価の推進、③開かれた議会運営の実現、④政策提言と政策立案の強化、⑤継続的な議会改革への取り組みを基本理念を実現する基本方向として位置づけた体系として取り組んでいる。

策定の基本フレームは、①策定体制、②2条例の同時策定、③内部・外部環境の分析、④倫理研究、⑤事例研究、⑥市民参加、⑦内部調整としており、条例検討を行っている。また、議会制度検討委員会も鋭意実施されている。

○ 所感

議会改革を絶えず意識して議会運営を行われている。議長の議会改革、議会運営に対する前向きな考え方に感動した。また、新人議員を視察の会議に出席させ、自分でも発言する場を作るなど若い議員を育てる意気込みも感じられた。

議会ランキングで5位以下にならないことも納得できた。

【二本松市】

● 農業6次産業化推進事業について

・統合して人口が56,000人となり、加西市より少し多いが、面積事態はすごく広い。農作物の生産加工による、元気な地域づくりとして、「ふくしま農家の夢ワイン株式会社」の取り組みを紹介された。遊休地を活用し、またタバコ栽培の減少に伴い、ブドウ栽培に切り替えている。養蚕業の衰退で、放棄された共同稚蚕所を改装し、ワイナリーにした。地域特産品のリンゴの規格外、摘果した青リンゴを使ってシードルとして製品化した。

高齢者を中心とした営農意欲を起こさせ、生き甲斐対策となっている。

○ 所感

補助金をもらっての事業であるが、数人の人が多額の出資により事業を行っていることに対して、ものすごい意気込みを感じた。協同稚蚕所を改装も自分たちの手で行い、ワイナリーの資格も取得して、軌道に乗りかけてきていると感じた。まだ、ブドウの樹が若いので、27年度は2,000本の醸造だったが、今後増えていくものと思われる。ブドウの樹のオーナー制度を考えているかと聞いたが、樹はまだ幼いので、今は無理だが、今後考えて行くとの回答であった。今後大いに期待できる事業であった。

織部 徹



平成28年5月17日～5月19日

1) 喜多方市の小学校農業授業について

全市の小学校において、年間33時間の農業授業をされ学年毎に授業内容（実施）項目を変えて行われていた。

父兄の問題、教職員の問題等を聞いたが、総合的教育時間内での対応なので大きな問題はなかった。又地域の方々の指導者の支援を得ておられ、充実した授業をされている。

この農業授業の成果として、生き物を大切にする、成長の過程を観察する、児童の心が豊かになる、体験授業なのですべての児童の取り組みが熱心である、不登校の生徒が無くなった等が挙げられていた。

感想として、私たちの年齢ですと

学校から帰ってすぐには家の人の手伝いをして色んな事を祖父母や両親に教えてもらっていたが、今は機械化進み、子供が田んぼへ行くことが無くなった。そう言った中、先程の成果についての見る、聞く、心で学ぶと言う事が無くなってしまったのではないかと思います。命を簡単に粗末にする、軽く考える世の中になっていると思います。

問題、課題は多々あるかと思いますが、是非加西市に於いても実施すべき内容であると思いました。

2) 会津若松市の市議会議会改革の取り組みについて

議会基本条例の制定のプロセス又概要と特色については加西市と差は無く、今回は政策形成サイクル（総論）（各論）について研修をした。

政策形成のサイクルでは、意見に聴取→広報広聴委員会→課題の設定→重要性の分析→政策づくり→議案審議・議決→執行機関への執行  
予算審議、決算審議もこの様な形成サイクルで行っている。

1) 政策研究で問題の発見、課題設定、問題の分析までを行い、市民との意見交換会で意見を聴取する。

2) 政策立案・政策決定・政策評価

上記の内容に対する具体的な手法も説明をもらった。

市民から意見を政策に反映されている模範的なスタイルではないかと思えます。今回の内容について議員協議会、各常任委員会で議論し是非取り入れて行きたい。

## 二本松市の6次産業化について

最初からブドウ畑が有り、そのブドウを活用したものをワインにしたものではなく、羽山リンゴをシードルとして製造し、2011年にブドウの栽培をし始め、植えてから3年が経ち、ようやく収穫できる様になり、現在に至っている。また農林水産省の職員の派遣により一層この夢ワインプロジェクトが進んだとのことであった。合併により4つの道の駅があり、農産物の販売をしているがあまり集客は良くなかった。

放射能の風評被害等も有り、未だに多くの汚染された土砂が置かれていた。

感想として市の取り組みがあまり見えなくて、たばこ、桑の栽培に代わっての栽培がどの様なものになるか、農業に対して取り組みが課題かなあ思った。加西市に於いてもぶどう農家の高齢化が進み他県でのワイン製造でなく、市内での醸造所を作り、6次産業化への取り組みが大切ではいかと思いました。

21 政会視察（H28年5月17日～19日）〔所感〕 中右憲利

◇福島県喜多方市【小学校農業科の取り組みについて】

視察日 平成28年5月17日

- ・平成18年に国の構造改革特別区域として小学校農業教育特区認定を受け、平成23年に市内全ての小学校で農業科を設置している。現在は総合的な学習の時間で、年間35時間、約一週間に一時間農業科の事業を実施している。
- ・将来の農業者を育てようということではなく、農業を通じての人間形成、食べ物や命の大切さを学び、自然相手の作業で、しかも種から育てて収穫せる事によって、色々な事を受け入れ努力する心の豊かさ、たくましさを涵養しようとするもの。
- ・発案者の前市長が農水省の官僚出身であった事、喜多方市は農業が盛んで、農業科の支援員が約100名もいるという条件がそろって出来たことと思うが、続けていく事は相当な努力がいる事と思う。
- ・この取り組みの成果が実感できるまでにはまだ時間が必要と思うが、子ども達の性格（協調性、粘り強さ等）、郷土を愛する心、あるいは農業後継者問題など、喜多方市にとって今後いい影響が現れてくればいいと思う。

◇福島県会津若松市【議会改革について】

視察日 平成28年5月18日

- ・議会のあるべき姿として非常に優れたシステムを構築されている。「市民との意見交換会」「先進地視察」「学識経験者を呼んでの勉強会」等を通じて問題を発見し、分析をして委員会討議をする。執行機関の行政情報を利活用しながら、議会として市の政策・施策のあるべき姿をゼロベースで考えて、議会としての提案を形成していく。
- ・当然議会の提案が執行者側にそのまま受け入れられるというわけではないが、議論を重ね、色々な場面で繰り返し提案していく事によって行政の政策・施策に影響を及ぼしていくという事。
- ・政策の提案にしても、議案の審議にしても議員間討議・意見交換を有効的に活用していると思う。特に委員会議案審査においては、事前に議案の論点整理・確認を議員間で行い、委員会においては質疑を全て終えてから争点のある議案に関して、議員だけで討議を行い、その後執行者を戻して討論、表決を行うという形で、議案の理解を大変深めるものとなっている。
- ・ただ姿勢としては議会が執行者に政策・施策を押しつけるものではなく、執行者の気づかない部分、今の施策では不十分な部分を議会が市民の声等から拾い上げて政策提言をしていくというもの。その形をきちんとシステム化しているところが素晴らしいと思う。

◇福島県二本松市【農業6次産業化推進事業について】

視察日 平成28年5月19日

- ・現在農業の6次産業化に向けて取り組みの途中、二本松市としても6次産業化を進める方針を持っていたが、実際に動き出したのは、地元有志が立ち上げたワイン生産プロジェクトの支援をするようになってからという事。
- ・有志の中に農水省から市に出向していた職員がいた事が、ワイン特区認定、醸造免許取得、機械等の補助金申請に大変役に立ったという事。今その職員は役所を辞め、6次産業化の取り組みに自ら身を投じているという事で、そういうキーマンがいるという事も大切な事と思った。
- ・ぶどう栽培による耕作放棄地の活用、養蚕業の衰退による共同稚蚕所のワイナリー化、地域特産品のリンゴを原料とする酒の醸造、高齢農業者の生きがい対策等、6次産業化による利点は多い。
- ・今二本松市では、民間アドバイザーを入れて、市で統一のブランド製品の開発、売れ続ける商品づくりのノウハウの習得を目指している。
- ・作りたいものから売れるモノづくりへの転換を進め、外部への情報発信等を含め販売戦略の確立を目指している。ファーマーズマーケットも建設中で、地域活性化の為のツールとして6次産業化を市をあげて支援している状態、一步一步前進を続けられるものと思う。

[所感] 長田 謙一

\*福島県 喜多方市・・小学校農業科の取り組みについて

先ず小学校3年生から6年生の生徒を中心に学習を通して作物にも命があることや様々な生命の関わりの中で農業が成り立っていることを学んでいる。

小学校農業科のねらいは

- ① 豊かな心の育成・・農作物は単なる食物で無く、命あるものであり人の命も大切にし、感謝の気持ちや慈しみの心を育てていく。
- ② 社会性の育成・・種をまき、苗を育て、植え付けをし、管理、収穫、調理、加工という活動を通し児童に責任感を持たせ目標に向かって取り組む大切さ、社会性の育成を図っている。
- ③ 主体性の育成・・一定の目標を設定し計画を立てて取り組み、学習意欲や取り組む態度が育成されると考えている。

感想としては、農業を通じて命の大切さ、共生の思いやりまた、環境についても、様々な生き物と共に共存、共栄していることの大切さを学んでいることは非常に素晴らしいと感じ、考えさせられる。

\*福島県 会津若松市・・議会改革について

1、公正・透明な開かれた議会運営

- (1) 市民にわかりやすい議会運営の推進

2、市民本位の政策監視及び評価の推進

- (1) 議決機関として適切な審議
- (2) 市民の代表として適切な監視・評価

3、市民参加機会の充実による多様な意見の把握

- (1) 市民の意見交換の多様な場の確保
- (2) 専門的知見等の活用

4、政策提言と政策立案の強化

- (1) 合議体たる議会として政策提言・政策立案能力の向上
- (2) 議会活動の評価とPR

5、継続的な議会改革の取り組み

- (1) 議会改革に係る調査研究の推進
- (2) 事務局による議会活動支援事業の充実

以上の内容で今後の議会改革を推進されている。

このような内容で加西市議会が検討すべき課題はどのようなものかと考えると、まず政策提言等、立案は重要と考えます。

それに、事務局の人数の確保と感じます。

それと、常任委員会活動の充実等が考えられ、今後加西市議会にも取り入れられるものは、是非検討すべきと感じた。

\*福島県 二本松市・・農業6次産業化推進事業について

年々増え続ける耕作放棄地、過疎化や少子化若者の農業離れによる後継者不足に追い打ちをかけるように、東日本大震災と原子力災害が発生した。

先行きの見通しのない中、地域農業活性化の起爆剤になるべきぶどうを植え始めた。同時に、養蚕業が廃れ放棄されていた養蚕飼育所をワイナリー工場に改装して有志で会社を立ち上げ酒造免許を取得して、羽山りんごを原料としたシールドを製造し、ぶどうの生育を待った。

その後、樹齢が上がり収穫量の増加、ワインの質・量の向上で6次産業化に地域の特産品として期待がされている。

加西市もぶどう（ゴールドンベリーA）の産地であるが、二本松市と異なるのは、ワイン専用のぶどうでない品種でワインを製造している点が大きく異なる。

それに、製造を委託している点であろう。

感想としては、加西市もぶどう栽培の後継者、ワインの販売、流通経路の確保も重要な6次産業の発展が充実な課題と感じた。

## 2 1 政会視察に関する所感

原 田 久 夫

### 1 福島県喜多方市「小学校農業科の取り組みについて」

平成18年1月4日に5市町村が合併し、同年の11月に国の構造改革特区として喜多方市小学校農業教育特区の認定を受け、全国初の教科として小学校農業科を設置した。

当初は、比較的児童数の少ない小学校3校の3年生から6年生対象に開始し、学校関係者、農業経験者の支援者の理解を求め平成23年4月から17校すべての小学校に農業科を設置している。

授業時間数は、35時間で総合的な学習の時間を利用している。

農業の教育的効果として、作物を育てる、食することの意味を感じ取ることで「①いのちについて学ぶ②共生の思いやり、環境について学ぶ③ゆとりや持続性・耐性を育む④想像力や判断力・実践を育む」を掲げ教職員とボランティアの農業経験者の支援により実施している。

子供たちのアンケートによると栽培活動が好きな児童たちが70%以上であったが、教職員には、農業経験者が少なくまた農業者の支援者に理解を求めるのに当初相当苦勞をされていた。

農業科は、農業実習を主に行い教職員、農業支援者と共に、土いじりをしたことのない児童たちが泥んこになって農作業を行い心の教育として取り組んでいる。

教育担当者からは、農業を経験することで、命の尊さ、思いやり、主体性など芽生えてきているように思うと聞かされました。

この農業科を他市の学校教育に設置するには、地域性の問題等ハードルが非常に高いと感じた。しかし、加西市の児童たちにも現在の学校教育と地域との協力で「豊かな心・社会性・主体性」など心の教育を学び成長してほしいと感じた。

### 2 福島県会津若松市「議会改革について」

平成19年5月の臨時議会で、議会改革が始まり基本理念として1、公平・公正・透明な議会運営 2、市民本位の政策決定、政策監視及び評価の推進 3、開かれた議会運営の実現 4、政策提言と政策立案の強化 5、継続的な議会改革への取り組みを掲げ多くの議会制度検討委員会を開催し、加西市議会基本条例より3年前に施行し、平成20年6月に議会基本条例を公布・施行されている。

議会運営プロセスにおいては、大きく異ならないが政策形成サイクル段階別概要について考えさせられた。

政策研究として、市民との意見交換会等での意見整理、問題発見、課題設定、設定された課題についての問題分析を行い調査研究、具体的な政策として立案・決定している。

この政策研究について、常任委員会から課題ごとに分科会を設置し調査研究又は

第三者の意見聴取を行い執行機関へ議長を通じた政策提案、提言を行っている。

加西市においても本年度より各常任委員会でテーマを設定し、調査研究を行い執行機関への政策提案、政策提言できるよう進めている。

今回の視察で学んだことを参考に議会活動を進めて行きたい。

### 3 福島県二本松市 「農業6次産業化推進事業について」

二本松市の農業は、まだ東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故で農業への風評被害にさらされているが「ふくしま農家の夢ワイン株式会社」は平成23年の震災の年から果実酒研究会を気の合う農家の人たち有志8人で結成し、翌年に東和ワイン特区認定取得、同年の9月に有志からの出資による会社を設立し、年々増え続ける耕作放棄地を利用してブドウを育て、ワイン作りの取組について視察を行った。

平成23年のブドウの植え付けから3年目で収穫が始まり5年目で2000本のワイン生産が可能となり地域内外への販売を本格化されている。設立当初は、地域特産品の「羽山リンゴ」を原料としたシールドを製造販売している。

ワイン工場については、廃止されていた共同稚蚕飼育所を仲間たちの手作りでワイナリーに改修し経費の削減を行っている。

6次産業化への取り組みは、生産、加工、販売であるが、ニーズに答えられる商品づくり、販売網、販売戦略、投資的経費、など多くの課題がある。

「ふくしま農家の夢ワイン」でも品質管理、継続して売れる商品開発・販売網の確立、ブドウ畑の拡大、コストの削減など多くの問題を抱えている。

二本松市の6次産業化は、地域の特色を生かした素晴らしい取り組みであると共に地域、行政とが一体となって取り組まれている。

二本松市には、道の駅が3ヶ所と平成29年にJAファーマーズマーケットがオープン予定で地域の農産物等の販売も確保されていた。

これからの農業は、農業経営者、行政、企業が一体となって農作物のブランド化、地域の特徴を生かした「6次産業化」新しい農業への取り組みが必要と実感した。

平成28年5月17日(火) 喜多方市

\*小学校農業科の取り組みについて

平成19年4月より3校で「農業科」の授業を開始以来23年4月からは、17校すべての小学校で、農業科を実施されている。

○農業の教育的効果

① 命について学ぶ

農業活動を通して、農作物が成長していくことを実感させ、農作物が単なる食べ物ではなく「生きるもの」であることを理解させ、さらに人間は、生きるものであるところの食べ物により日々命をつないでいることに気付かせ命の大切さについて、理解を深めさせることが出来るものと考えられる。

② 共生や思いやり、環境について学ぶ

農業活動を通して、水田や畑は、作物を育てる場であると同時に、多くの生き物が生まれて生活をする場であることを気付かせ、人間がさまざまな生き物とともに生きることの大切さを理解させる

この他 ③ゆとりや持続性・耐性を育む④想像力や判断力・実践力を育むなど農業を体験させることによって (1) 豊かな心の育成 (2) 社会性の育成 (3) 主体性の育成をはかっている。

【所感】

子供たちにとって素晴らしい教育であることは間違いないところである。

農業科作文コンクールを拝見しても子供たちの農業に対する思い感性が表れている。

しかしどの学校でも出来るかといえればかなり難しい。

でも農業体験をさせることは田舎の小学校ならできないこともない、また自然環境学習なども出来るのではないか。

食育の面においても農業体験学習を少しの時間でも取り入れる必要性を感じた。



5月18日(木) 会津若松市

\* 議会改革について

【所感】

加西市でも議会改革を進める中今挑戦しようとしている課題について目黒議長より説明を受けた。

○ 議会からの政策形成について

政策形成サイクルの基本フレームに沿って進められている。

まずは、意見交換会での意見の聴取→広報広聴委員会による意見の整理、問題発見→各派代表者会議による課題の決定→政策討論会→常任委員会での政策討論会、政策づくり→意見交換会本会議・委員会での議案審議・議決→執行機関の執行

以上のような流れではあるが、市民から頂いた意見整理から問題発見を行う際、政策討論会などでしっかりと議論され課題の決定をされている。

また、閉会中の継続調査においては、分科会方式でそれぞれテーマを設定し政策討論会としても活発な議論を展開されている。

また、議員間討議においては、議案内容の課題論点の洗い出し、そして議員間における論点整理、確認そして争点があればここで、論点の再整理・議員間討議を行うという形で進められている。加西に無い点は、委員会事前打ち合わせで、各自が抽出した論点を持ち寄り意見交換を行い「委員会としての論点の抽出」を行う点である、少なくとも議員それぞれが議案に対ししっかりと勉強していかなくてはならないと思う。

この他にも優れた取り組みをされておられることに感心した。

5月19日(金) 二本松市

\* 農業6次産業化推進事業について

ここでは、ふくしま農家の夢ワイン株式会社の取り組みについて紹介された。

内容は、大好きなお酒で地域の活性化が図れないかと有志が集まり活動をはじめた。

当初は「どぶろく」や「日本酒」の醸造を計画していたが、中山間地域の特性を生かしたブドウの栽培や若者にも飲んでもらいたいとの意見から「ワイン」の醸造をめざし東和果実酒研究会を結成する。平成27年産ワインは約2,000本を醸造。ブドウ栽培による遊休農地・耕作放棄地の解消にも一役買っている。

【所感】

東和ワイン特区認定を受け製造免許取得また人材の確保などいろんな好条件の元この会社の設立となっている、なかなか真似は、できないがうまく条件を整えば出来るかもしれない、いい勉強になった。

この他ブランド産品促進モデル事業にも農政課としてしっかりと取り組んでおられることに感心した。

所感

森元清蔵

○ 喜多方市 【小学校農業科の取り組みについて】

- ・ 小学校で学科として農業の授業がなされていて素晴らしい。  
農作物を種から育てることによって、多くのことを学んでいる事を再認識しました。知識だけでなく、こころの教育がなされている。  
いのちの大切さ、様々な生き物が共に生きることの大切さを学び、耐性や持続性を身につけ、想像力や判断力を育てている。
- ・ 実施にあつたては、地域のボランティアの支援があつてこそできていると思う。
- ・ 加西市においても、農業から学ぶ教育を強めて行けたらと思う。親も含めて米をはじめ、野菜等の農作物を育てる実践から学ぶことは多くあると思う。

○ 会津若松市 【議会改革について】

- ・ 政策提言ができる議会にむけて、政策形成サイクルが確立していてわかりやすかった。段階を踏んで取り組んでいけたらと思う。  
まず、市民との意見交換において出された意見を分類し、問題を発見し、特に解決すべきものを課題（テーマ）として設定することが必要。この段階までにも、各会派、各委員会で議論をすることが必要になる。  
その後、テーマについて、何がどのように問題なのか明らかにしていく問題分析は、どこで行うのかは課題である。会津若松市議会では、政策討論会で行われているが、そのやり方も①議員全員の全体会②委員会単位の分科会③会派代表、市民も含む議会制度検討委員会と3通りある。
- ・ 議案の審査において、論点を深めた質疑がされているように思う。  
議案を受け取って、まずは自分で課題・論点を洗い出している。  
次に、委員会事前打ち合わせをして、「委員会としての論点の抽出」をしている。委員会での質疑では、抽出論点一覧表を基に、議員が関連質疑をして、重装的に質疑をして、論点を深めている。

○ 二本松市 【農業6次産業化推進事業について】

- ・ 「ふくしま夢ワイン株式会社」は、地域特性をうまく生かして取り組まれている。  
タバコの代替作物としてブドウの栽培。  
養蚕の共同稚蚕所を改装してワイナリーに。  
特産リンゴの企画外品を原料にしたり、摘果した青リンゴを利用。  
遊休農地・耕作放棄地にブドウを栽培。  
高齢農業者の営農意欲の復活。
- ・ 6次産業化で収益の安定化に向け、生産者ニーズから消費者ニーズへ意識転換することの必要を学んだ。ここでは、ごぼうコロッケが開発されている。